
寄附講座の概要

1. 大学名 (学部名)

広島大学 (大学院医歯薬学総合研究科)

2. 寄附講座の名称

幹細胞生物医学講座

Division of Cell Biology and Histology of Yamaguchi Univ.

3. 寄附者

財団法人 研栄社

4. 寄附金額

総額 300万円 (100万円/年)

5. 寄附の期間 (定期寄附)

平成22年4月1日 (開講) 以来 毎年5月1日現在 平成34年3月31日

6. 寄附金の使途

四国薬科の増強および学術的発展のための、本講座の活動に使用される。

7. 寄附の方法

現金での納入

8. 当該寄附金等による効果

活動内容 1. 幹細胞生物学講座 (学長特別講座)

2. 幹細胞生物学講座 (助講特別講座)

9. 本寄附講座の寄附研究活動の概要

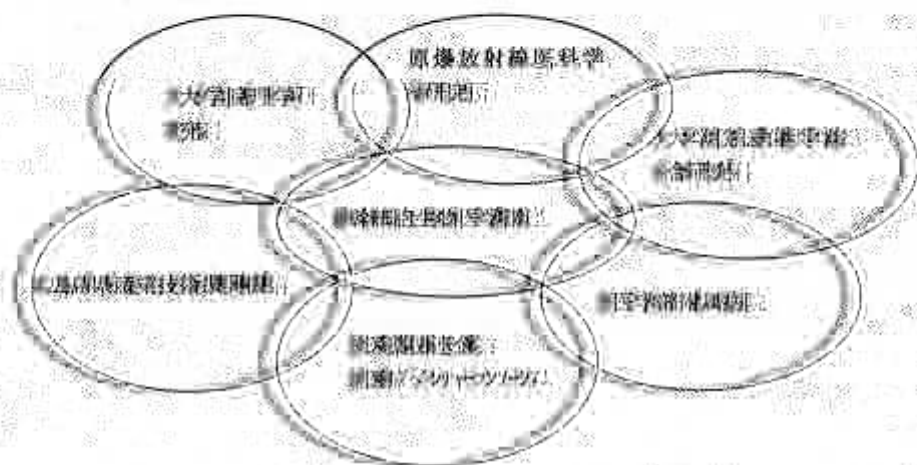
(1) 設け趣旨

本講座は、幹細胞生物学を主眼とするが、細胞の分化・増殖に関する基礎的・臨床的課題にこの幹細胞生物学の知見を応用する必要がある。そのため、本講座は、幹細胞生物学の基礎的・臨床的課題の解決に貢献することを目的として設けられた。本講座は、幹細胞生物学の基礎的・臨床的課題の解決に貢献することを目的として設けられた。本講座は、幹細胞生物学の基礎的・臨床的課題の解決に貢献することを目的として設けられた。

本講座は、幹細胞生物学の基礎的・臨床的課題の解決に貢献することを目的として設けられた。

医歯薬学総合研究科および医学部、理学部教育における発生、再生医療の研究の一部を担当ないし補強する。

さらにこの寄附講座を通じて再生医学を基礎・臨床教育に積極的に取り入れ、20世紀末から世界的規模で克つ急速に展開・進展してきた再生医学とその臨床応用に対応する研究者育成を図り、健康で豊かな長寿社会実現のための21世紀を担う再生医学研究者、及び医療人の育成につなげる。



(3) 期待される効果

●現在、組織幹細胞の期待が安全な保存処生の両面で進められており、有用性が高いと評価されているが、その期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。一方で、幹細胞由来の組織幹細胞の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。一方で、幹細胞由来の組織幹細胞の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。

●また、幹細胞由来の組織幹細胞の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。一方で、幹細胞由来の組織幹細胞の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。

1. 大分県立看護科学の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。

●大分県立看護科学(看護学)の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。一方で、幹細胞由来の組織幹細胞の期待が期待通りの効果が得られ、これが具体的な臨床応用を進行段階である。

1.1. 寄附講座の現在までの経緯と設置の必要性

平成9年から3年間、理学部に「再生生物学」の寄附講座が設立され、医学部、歯学部、原爆放射能医学研究所などで再生医学研究が進み、広島大学における再生医学研究は新しい展開をしている。今後は世界的に急速に進んでいる再生医学研究に対応して、広島大学でのこれまでの骨・軟骨・肝細胞における特徴的な再生医学研究を一層充実させ、さらにES細胞や皮膚、血管、心筋に関する再生医学研究などへ広く展開し、その臨床応用実現を目指し、併せて世界的規模で急速に展開・発展している再生医学研究に対応すべく、再生医学研究者や再生医療を实践する専門的職能人の優れた人材育成をも目指している。そのためには、既存の再生医学研究組織を機能的に一体化して効率的な研究体制を整備する必要があり、再生医学の根幹をなす幹細胞研究を集中的に行うための寄附講座(幹細胞生物医学講座)を設置してその中核とし、21世紀の新しい再生医学研究体制を確立する。

広島大学における再生医学研究推進のため広島銀行を筆頭とする地元企業9社より寄附講座の申し入れがあった。

これを受けて、本研究科内で慎重に審議した結果、本寄附講座の受け入れが本研究科の教育・研究の趣旨に合致すること、また、本研究科の主体性のもとに本寄附講座が運営され、かつ研究の流動性、国際化、学際化及び公開化を促すものとして了承された。この議論の経過を平成14年4月15日研究科教授会に諮り、寄附講座「幹細胞生物医学講座」の受け入れが承認され、寄附講座設置の手続きを行うこととした。

